

中国経済論

東京女子大学2019年度

第1回

丸川知雄

授業計画(教科書の該当ページ)

- 4月12日(今日) 本授業のテーマ、中国史のおさらい(はじめに、第1章 2-12ページ)
- 4月19日 中華人民共和国になってからの経済の流れと将来 第1章 12-27ページ。
- 4月26日 計画経済の仕組み 第2章 30-56ページ。
- 5月10日 市場経済への移行 第2章 56-72ページ。
- 5月17日 労働市場1 第3章
- 5月24日 労働市場2 第3章
- 5月31日 財政と金融1 第4章 112-133ページ
- 6月7日 休講
- 6月14日 財政と金融2 第4章 134-146ページ
- 6月21日 技術1 第5章 148-174ページ
- 6月28日 技術2 第5章 174-192ページ 最近の話題
- 7月5日 国有企業と産業政策 第6章
- 7月12日 外資系企業と対外開放政策 第7章
- 7月19日 民間企業と産業集積 第8章
- 7月26日 試験

教科書・評価方法

教科書

- 丸川知雄『現代中国経済』有斐閣、2013年

評価方法

- 試験・レポート

注意事項

- 授業後の質問は遠慮して下さい。
- スマホ・携帯電話は電話以外の用途では使用しないこと。

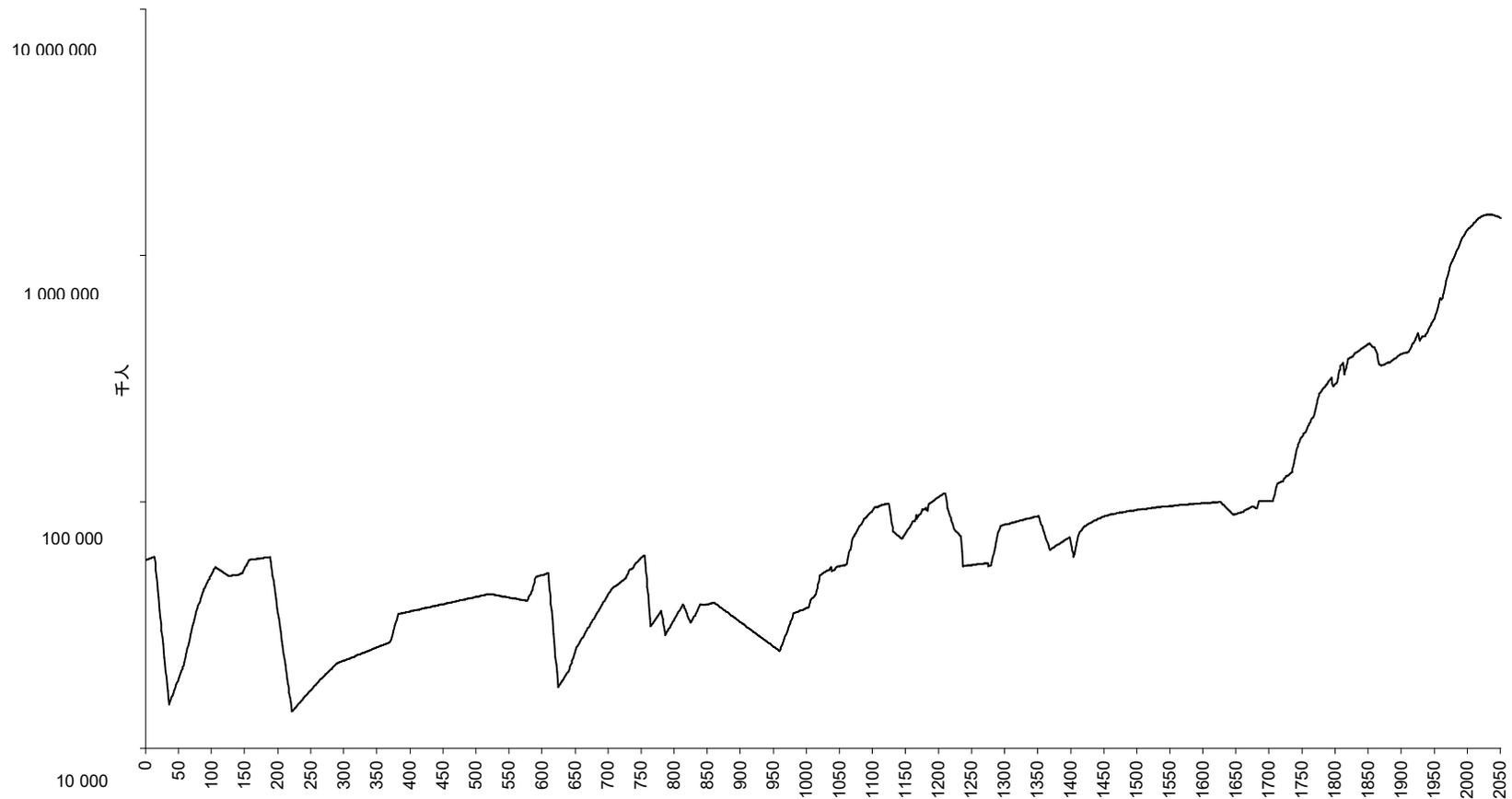
その他アナウンス

- パワーポイントは授業後に本授業のページにアップロード
- 教科書のデータはホームページ上でダウンロードできる<http://web.iss.u-tokyo.ac.jp/~marukawa/ccepage.html>
- 上記のデータをレポートの作成で利用できる

第1章 経済成長の過去と将来

参考文献：岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会、2013年

図1-1 中国の人口の推移(紀元1～2050年)



(出所) 1949年以前は趙・謝『中国人口史』、1950～2008年は『中国統計年鑑』、2009年以後は国連推計<http://esa.un.org/unpp/index.asp>

宋

- 宋(960~1279年) 長江下流域でクリークを作って排水し、海水の侵入を防ぐ。堤防で囲まれた圩田・垸田と呼ばれる農地が造成された。1080年には江南:中原の戸数比が6.5:3.5になった。国内・国際の商業が活発化。
- 北方で金が勃興。契丹を滅ぼし、北宋から中原を奪い、宋の首都は開封から臨安(杭州)へ。江南では福建、広東、安徽、湖南などの開発が進む。
- 金や南宋では従来の銅銭に加えて紙幣も流通し、商品経済が活発化。南宋では水運が盛んに。広州や泉州にはムスリムの海上商人が居留区を作り、東南アジアからの香辛料、薬材、象牙、犀角を商う。南宋の商人は寧波を起点に日本(博多)にも来訪。

元～明

- モンゴルの圧力で、金が開封に遷都すると中原は無政府状態になり、人口が激減。
- 1234年、モンゴルが金を滅ぼし、中原を支配。
- 元(1271～1368年) ユーラシアを統合したので、東西の陸上交易、江南の海上交易が発展。大運河も改修。銀を通貨としたが、紙幣も発行。
- インド原産の綿が伝わって栽培されるようになり、江南では綿織物業も。
- 明(1368～1644年) 元末の混乱のなかで紙幣が信用を失う。明は「現物主義」をとり、例えば穀物で徴税して官吏や軍人が消費した。対外交流は朝貢のみとした。貨幣不足と海禁のため経済は停滞。しかし、15-16世紀に密貿易が盛んになって中南米や日本の銀が流入し、絹、綿、茶などを輸出。商品作物生産が活発化。人口は1.5-2億人に増加

清

- 清の時代に中国の人口は1億人弱から1840年には4.2億人に急増。
- トウモロコシ、サツマイモ、ジャガイモ、落花生など乾いた土地でも栽培できる新大陸由来の作物が内陸の傾斜地で生産された。また、東北部には移民の増加とともに大豆栽培が広がる。
- 清の皇帝はチベット、モンゴル、ウイグルの首長を兼ね、清の版図は現在の中華人民共和国とモンゴルを合わせた領域に拡大。
- オランダなどによる仲介貿易によって絹織物、陶磁器、茶を輸出し、銀が流入。
- 1820年の時点で中国(清)は世界の人口の37%、世界のGDPの33%を占める世界で最も経済と人口の規模が大きい国であった。

康熙帝時代(1662-1722年)にザクセンに輸出された中国産伊万里焼



Meissenで1730年に作られた中 国風磁器



中華帝国の衰亡(1840～1949年)

- アヘン戦争(1839～1842年): 貿易赤字解消のためイギリスがインドで栽培させたアヘンを中国に輸出。1838年には400万人分の輸出規模。
- 太平天国の乱(1851～1864年) 人口が4.4億人(1852年)から3.58億人(1870年)に激減。
- 外国商社(洋行)が進出、「買辦」と協力。
- 票号、銭荘など民間金融機関が発展。
- 地方官僚による洋務運動の展開: 李鴻章による上海機器織布局、張之洞による国営漢陽鉄廠
- 張之洞は湖広総督として貨幣改鑄によってシニョリッジを得て産業やインフラに投資
- 民間の工場設立として南通の大生紗廠(張謇)

アヘン戦争で清朝がイギリスを砲撃するために使った大砲



輸入品



中国製

内乱と戦争の中華民国時代

- 1911年辛亥革命、12年中華民国成立
- 北京政府時代(1912-28年): 各省の軍司令官が教育・衛生、産業振興、通貨発行も担う。いわゆる「軍閥」(東北の張作霖、山西の閻錫山など)による分権的統治。「釐金」(=国内流通税)の徴収。
- 国民革命(1924~28年)
- 関税自主権回復、通貨の統一、釐金の廃止を成し遂げた南京政府(1928-49年)
- 製糸業、綿紡織、タバコ、製粉などの工業が上海、天津、広州など沿海部の都市で発展。綿糸は1914~20年代前半の間に急速に輸入代替を達成。日本資本の在華紡も輸入代替に貢献。
- 重工業では中国資本による化学工業が発展。
- 満鉄が建設した鞍山製鉄所、日本の大倉財閥による本溪湖製鉄所

日中戦争と内戦

- 満州事変(1931年)、満州国建国(1932年): 東北部を中国から経済的にも分離
- 日中戦争(1937~45年): 1940年に重慶国民政府から離脱した汪精衛による南京国民政府樹立
- 国民政府は資源委員会(1935年~)のもとでタングステン、アンチモニーの輸出と引き換えに製鉄、化学、電力など近代工業を建設
- 国共内戦(1946-49年)